平成 30 年度日本小児腎不全学会評議員会議事録

日時：平成 30 年 11 月 8 日（木）11：00～11：50
場所：宮崎県宮崎市　宮崎観光ホテル東館 2 階紅
出席者（敬称略）：芦田明、大田敏之、奥見雅由、賀本敏行、宍戸清一郎、白髪宏司、杉谷篤、野島道生、服部元史、濱崎祐子、藤枝幹也、堀田記世彦、渡井至彦（以上 13 名、欠席 12 名のうち委任状 12 名）、此元隆雄、三浦健一郎（オブザーバー）

第 40 回日本小児腎不全学会賀本敏行会長の挨拶につづき、以下のように各議題が討議された。

議題

(1)　オブザーバーの承認
第 40 回事務局 宮崎大学小児科の此元隆雄先生と東京女子医科大学腎臓小児科の三浦健一郎がオブザーバーとして参加することが承認された。

(2)　逝去会員の報告
北川照夫先生が 2017 年 12 月 18 日に逝去されたことが報告され、黙祷が捧げられた。

(3)　新評議員の挨拶
東京女子医科大学泌尿器科奥見雅由先生、東邦大学医学部小児腎臓学講座濱崎祐子先生、北海道大学泌尿器科堀田記世彦先生より挨拶があった。

(4)　会計報告・予算案
平成 29 年度の会計報告ならびに平成 30 年度の予算案が事務局より報告された。会計報告が適正なことが監事である香美祥二先生、宍戸清一郎先生の書面によって報告され、平成 29 年度の会計報告と平成 30 年度の予算案が了承された。

(5)　会員動向
平成 30 年 9 月 13 日現在の会員数は、正会員 599 名、名誉会長 2 名、名誉会員 20 名であると事務局より報告された。平成 27 年度以降の増加は、学会誌の筆頭著者は会員であることを必須としたためと報告された。

(6)　評議員退任
上村治評議員、高橋昌里評議員、本田雅敬評議員、吉村了勇評議員が定年に伴い退任となる旨が報告された。また、和田尚弘評議員から退任のご希望があり、承認された。

(7)　名誉会員の推薦
上村治評議員、高橋昌里評議員、本田雅敬評議員、吉村了勇評議員が名誉会員に推薦され、承認された。

(8)　評議員の推薦
秋岡祐子先生（埼玉医科大学小児科）、川崎幸彦先生（福島県立医科大学小児科）、佐藤裕之（東京都立小児総合医療センター泌尿器科）、幡谷浩史先生（東京都立小児総合医療センター総合診療科）が評議員に推薦され、承認された。

(9) 次々期会長の選定
第 42 回会長（平成 32 年度）に野島道生評議員（兵庫医科大学泌尿器科）が推薦され、承認された。

(10) 編集委員会報告
第 38 巻（2018 年 7 月発行）の掲載論文数について報告された。症例報告数が減少傾向であることについて検討が必要とされた。また、査読システムを導入した第 35 巻から大学図書館からの送付依頼が増加していることが報告された。

(11)その他
1)UMIN オンライン演題登録システムについて
UMIN オンライン演題登録システムが終了予定と通知されていたが、多方面からの要望により有料化して運用が再開される通知があったこと、第 41 回も UMIN オンライン演題登録システムを利用する予定であることが報告された。
2)優秀演題の件
第 40 回大会事務局の此元隆雄先生より、看護部門演題はすべて優秀演題賞応募演題として採択したことが報告された。優秀演題賞応募演題への年齢資格について議論され、「卒後 20 年以内」の規定に「原則」という文言を付けることが提案され、了承された。
3)日本小児科学会専門医更新単位認定について
日本小児科学会新専門医制度に則り、第 39 回大会に引き続いて今大会でも講演の聴講者に単位が与えら

れることが報告された。今後も、事務局が適宜サポートして各大会長が申請していくことが確認された。

4)学会収支状況
年会費徴収と広告収入獲得の努力により、平成27年度より連続して繰越金が700万円を超えたことが報告された。
5)会員構成
事務局より、看護師等のメディカルスタッフの会員が少なく、医師以外のメディカルスタッフの年会費を3,000円に減額することが提案され、承認された。さらに、今後もコメディカルを演者に含めたシンポジウム等を積極的に検討することとなった。杉谷篤評議員より、臨床腎移植学会での経験から、看護サイドで核になる人を評議員に加えることが提案され、今後検討していくこととなった。

(12) 次期会長の挨拶
第41回会長の藤枝幹也評議員より準備状況が報告された。
平成31年11月28日(木)～11月29日(金)、三翠園(高知市)にて開催予定。

日本小児腎不全学会事務局
議事録作成　服部元史　印
議事録署名　賀本敏行　印
藤枝幹也　印